

感染症情報 4月25日～5月1日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

| | | |
|---------|-------|----------|
| ①感染性胃腸炎 | 1624例 | （堺市 76例） |
| ②溶連菌感染症 | 425例 | （堺市 28例） |
| ③おたふくかぜ | 175例 | （堺市 3例） |
| ④突発性発疹 | 104例 | （堺市 3例） |
| ⑤咽頭結膜熱 | 92例 | （堺市 0例） |

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 266例（堺市 13例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から5%減少し、上位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。溶連菌感染症の増加傾向が続いており、夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）が5位に入り、全国的にも増加傾向であるので、注意したい。

インフルエンザは定点当たり0.9（堺市0.4）とほぼ終息した。はしかと風疹の報告はなかった。

5月2～8日はゴールデンウィークで休診の医療機関も多く、全体として感染症報告は21%減少し、インフルエンザも定点当たり0.3と流行は終息した。はしかと風疹の報告はなかった。